

京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター主催

第4回

先端ファイナンスビジネス研究会

東証の売買システム(arrowhead)と株式市場



- ・ 講師:小林賢一(こばやし・けんいち)氏 ㈱東京証券取引所
IT開発部 arrowheadグループ マネージャー
- ・ 日時:1月26日(木)16:30-18:00
- ・ 場所:総合研究2号館1階(大講義室)
- ・ お問い合わせ: 経済学研究科附属プロジェクトセンター 加藤康之/遠藤富貴子
Mail kato@econ.kyoto-u.ac.jp Tel 075-753-3429(加藤)/3531(遠藤)

インターネットが高度に発展した現在、世界の証券取引所もその影響を大きく受けています。世界の機関投資家は刻々と変化する世界経済に対応するため、ポートフォリオの再構築、つまり証券の売買もリアルタイムで行うことが普通です。したがって多くの機関投資家は高度で高速なシステムで装備するようになっていきます。一方、売買の注文を執行する証券取引所でも、これら投資家のニーズに対応するためシステムの高速化が求められており、世界の主要取引所間の競争も激化しています。東京証券取引所では2010年1月初めに世界最新鋭の取引所売買システム”arrowhead”を導入し、世界から注目を浴びています。本講演では、arrowhead開発担当者から、以下の項目に関して解説します。

- 取引所売買システムに求められるもの、市場を取り巻く環境
- arrowheadの基本コンセプト、開発プロセス、高速性
- arrowhead稼動前後での注文、約定の傾向の変化 等

＜先端ファイナンスビジネス研究会の趣旨＞

ITや金融技術の進展は金融ビジネスを大きく変貌させている。それは、リーマンショック以降も同様である。ファイナンスビジネスは伝統的な業態(銀行、保険、証券など)を中心とした構造から、新たな付加価値をもたらす新しいプレーヤーが大きな影響力を持つようになって来ている。ヘッジファンドや格付け機関はその象徴であろう。広く金融市場、企業ファイナンスを理解するうえで、これら新しいプレーヤーの役割を理解することは必須となっている。

「先端ファイナンスビジネス研究会」では、これらの新しいプレーヤーを理解することを目的とし、各分野の実務担当者を招き講演、自由討議を行うものである。頻度は月に一回程度とする。

京都大学経済学研究科教授 加藤康之

※ 講演後に同社人事担当者による会社説明(就職説明)があります